

2 徒手搬送



傷病者を発見した場合、原則、応急手当の実施後に傷病者の搬送を行いますが、傷病者がいる場所が危険な場合や応急手当の実施に支障がある場合には、傷病者を安全な場所に移動させる必要があります。

ここでは、担架が使えない場所や担架がない場合の、「徒手搬送」という搬送方法を紹介します。

搬送時のポイント

① 傷病者を観察しましょう!

傷病者の搬送前に、負傷部位や症状を確認し、必要なファーストエイド(P36「第5-3ファーストエイド」参照)を行いましょう。搬送中も傷病者の容態は変わりますので、適宜声掛けをするなど、確認しながら搬送しましょう。

② 傷病者の負担が少ない搬送方法を優先に!

傷病者の意識がある場合には、傷病者が希望する楽な搬送法(体位)を心がけましょう。また、徒手搬送は傷病者に負担を与えますので、必要最小限にとどめましょう。

③ 搬送者(自身)の安全をまず第一に!

傷病者の搬送は、搬送者の身体にも負荷がかかります。特に持ち上げる際には、腰の負荷を極力減らすため、足を肩幅ぐらいに開いて、できるかぎり上体を起こし、腰を低くして全身を使って持ち上げましょう。また、傷病者に出血や嘔吐がある場合は、感染防止のため、搬送は控えましょう。

1人法

1 支持搬送

意識障害がなく、片方の足に怪我をした人など、歩行困難な傷病者に行う搬送法です。

- ① 搬送者は、傷病者の負傷した又は不自由な足側に立つ
- ② 傷病者の腕を、自分の首に回して、一方の手で保持する
- ③ もう一方の手で腰の部分(ベルト等)をつかみ、軽く上部を持ち上げるようにして搬送する



2 背負い搬送

意識障害がなく、歩行困難な傷病者を背負い、比較的長い距離移動する場合に行う搬送方法です。

- ① 搬送者は、姿勢を低くして傷病者を背負う
- ② 傷病者の膝下から腕をいれて抱えこみ、壁などの支持物に手を添え、姿勢を安定させて立ち上がる
- ③ 両手をしっかり保持して搬送する

【ポイント】

- 傷病者に骨折、内臓に損傷の疑いがある場合や、搬送者と体格差が大きい(傷病者が大きい)場合には適していません。
- 可能なかぎり、傷病者におんぶの要領で乗ってもらったり、搬送者にしっかりつかまってもらうように協力を促しましょう。



3 横抱き搬送

意識障害の有無にかかわらず、歩行できない乳幼児や小柄な人を、短時間、短い距離移動する場合に行う搬送方法です。

- 1 背中と膝の下に腕を入れ、横抱きする
- 2 傷病者の意識がある場合には、傷病者の手を搬送者の首にまわしてもらう
- 3 姿勢を安定させて立ち上がる

【ポイント】

- 頸部や背部の傷病者には適していません。



小柄な負傷者が大前提



緊急時の搬送方法

4 背部からの引きずり搬送

意識障害の有無にかかわらず、歩行できない傷病者を緊急時に安全な場所に移動する場合に行う搬送方法です。

- 1 脇の下から手を入れて抱きかかえるように上体を起こす
- 2 両手で、傷病者の片方の腕の手首及び肘部分をしっかりとつかむ
- 3 搬送者の腰を少し吊り上げるようにして後方に引きずる

【ポイント】

- 傷病者の胸部、腹部を圧迫する場合がありますので、緊急時以外は行わないようにしましょう。
- 搬送者の背面側に移動するため、進行方向の安全を確認しながら移動しましょう。
- 搬送者の腰に負担がかかるため、短い距離の移動にしましょう。



5 毛布等による引きずり搬送

意識障害の有無にかかわらず、歩行できない傷病者を緊急時に、毛布やシーツを用いて安全な場所に移動する場合に行う搬送方法です。

- 1 毛布を置き、傷病者を毛布の上へ移動させる
- 2 毛布で傷病者を包む
- 3 傷病者の頸部あたりの両側の毛布を手繰り寄せて持ち、傷病者の肩を浮かせて後方に引きずる

【ポイント】

- 搬送者の背面側に移動するため、進行方向の安全を確認しながら移動しましょう。
- 搬送者の腰に負担がかかるため、短い距離の移動にしましょう。



2人法

6 前後からの抱え搬送

意識障害の有無にかかわらず、歩行できない傷病者を前後から2人で抱えて行う搬送方法です。

- 1 背中側の搬送者は、脇の下から手を入れて抱きかかえるように上体を起こし、両手で、傷病者の片方の腕の手首及び肘部分をしっかりとつかむ
- 2 足側の搬送者は、傷病者の足首を交差させ、両手で脇に抱える
- 3 搬送者2人が同時に持ち上げ、足側から搬送する

【ポイント】

- 傷病者を持ち上げる際には、搬送者は声を掛け合ってタイミングを合わせましょう。



7 左右からの抱え搬送

意識障害がなく歩行できない傷病者を左右から2人で抱えて行う搬送方法です。

- 1 搬送者2人が一方の腕で相互に肩を組み、傷病者の背中を支える
- 2 もう一方の手は、傷病者の太ももの下でお互いの手首を握る
- 3 傷病者の両腕を搬送者の肩にまわしてもらい、搬送者2人が同時に持ち上げて搬送する

【ポイント】

- 傷病者を持ち上げる際には、搬送者は声を掛け合ってタイミングを合わせましょう。
- 搬送者2人の身長は同じぐらいが望ましいです。

